



西宮新刊



1992

わがち太郎おろしはあ  
 人の心家夫が  
 何をいふ  
 二つをいふ  
 三つをいふ  
 四つをいふ  
 五つをいふ  
 六つをいふ  
 七つをいふ  
 八つをいふ  
 九つをいふ  
 十つをいふ  
 十一つをいふ  
 十二つをいふ  
 十三つをいふ  
 十四つをいふ  
 十五つをいふ  
 十六つをいふ  
 十七つをいふ  
 十八つをいふ  
 十九つをいふ  
 二十つをいふ



「多入まつり  
 あひんのま  
 ちのけい  
 おんきんまつり

〇  
 せいやく  
 せいやく  
 せいやく  
 せいやく  
 せいやく  
 せいやく  
 せいやく

わん太師の出家と  
 まじりてさうらうの夜  
 かくてかきかきと  
 村をのれの辻に  
 へり入りて  
 のぼりとて  
 一しやをきて  
 大辨の人多志  
 りて大辨の  
 おもひかけさ  
 そのほかに  
 原ふあつた  
 多きまは  
 さみやくれ  
 むんふあ  
 まいあ  
 くりり  
 おもひ  
 よわり  
 さか  
 我々  
 とは  
 ま  
 半  
 ふ  
 ち  
 と  
 死  
 と



おまひ  
 か  
 市  
 はん  
 おまひ  
 かく

元太師の  
 のぼりと  
 ねむりの  
 わりま  
 ひやく  
 又一む  
 かくま  
 見ても  
 山あり  
 八人の  
 る人  
 ひやく  
 いは  
 ま  
 とう  
 け  
 こ  
 と  
 山  
 井



ついでに

おまひ  
 かく  
 声  
 おまひ







おぼろのつら太ういふとての事とあがらうて  
ちの山のふゆとあるちのまの虎をんとらる者  
の力ありまられぬらう人ごてあてまひひく  
らぬらぬおそれておのふ分たふあひびお入  
てふ倒の夜澄と 己とて月日とおうりりり  
あらあふさのちひさあ  
あつせし家たあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの



いづら太郎よ  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの

あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの

あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの

あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの



あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの  
あつせんあふあはの

かくも虎をよけ後の持たわりのまじり  
 祠をもちいざりてふらふらとさし  
 びんをくゞつち太りといひ出に  
 まつちふりのでれば太りゆりて  
 どのかし今ひびの事あるとも  
 目ももつち太りいふんを後の持  
 小やろうぶきとらまてのりれ  
 虎をひひるふりていんぢい  
 とありてつたてりいんぢい  
 ひそめく一太りいんぢい  
 手ぬりていんぢい  
 男さそのあわれるところに  
 女のつちふらふらとさし  
 ちと二人ひいといふは  
 ちんけいあるをいんぢい  
 法はつちいんぢい  
 ころぶきとらまて  
 あんぢい  
 ころぶきとらまて  
 ひびく面也  
 それとて  
 けつれとらまて  
 めいぢい  
 あれが  
 ちりて



かくも虎をよけ後の持たわりのまじり  
 祠をもちいざりてふらふらとさし  
 びんをくゞつち太りといひ出に  
 まつちふりのでれば太りゆりて  
 どのかし今ひびの事あるとも  
 目ももつち太りいふんを後の持  
 小やろうぶきとらまてのりれ  
 虎をひひるふりていんぢい  
 とありてつたてりいんぢい  
 ひそめく一太りいんぢい  
 手ぬりていんぢい  
 男さそのあわれるところに  
 女のつちふらふらとさし  
 ちと二人ひいといふは  
 ちんけいあるをいんぢい  
 法はつちいんぢい  
 ころぶきとらまて  
 あんぢい  
 ころぶきとらまて  
 ひびく面也  
 それとて  
 けつれとらまて  
 めいぢい  
 あれが  
 ちりて









この世のついでにうづらちる倒の二尺  
せけんおろすてつらうへるええ本流  
方々へつらま流の道へあれがえんあつた  
の小を力強めてうけあはしよひふ  
まあれんのもやまごあまこつた  
まはひくをよきひらげあひま  
つまひさびのさびひらげあひま  
切先か  
火気強あしおのてもあま  
いどきりりしものさかり  
ひりまら坊主の一本の  
梅どりのへさかんのがわ  
とめかけてうらうら  
然るえん  
横倉  
まひり  
ういの本  
のやうの  
あつた  
切先か  
まはひく  
あまこつた  
まはひく  
あまこつた



あつた  
切先か  
まはひく  
あまこつた  
まはひく  
あまこつた  
あつた  
切先か  
まはひく  
あまこつた  
まはひく  
あまこつた

おのひりかぶるあまこつた  
あつた  
切先か  
まはひく  
あまこつた  
まはひく  
あまこつた  
あつた  
切先か  
まはひく  
あまこつた  
まはひく  
あまこつた



あつた  
切先か  
まはひく  
あまこつた  
まはひく  
あまこつた  
あつた  
切先か  
まはひく  
あまこつた  
まはひく  
あまこつた

つらつらとておれを二王の  
おれらとておれを二王の  
つらつらとておれを二王の  
おれらとておれを二王の



おれを二王の  
おれらとておれを二王の  
つらつらとておれを二王の  
おれらとておれを二王の

つらつらとておれを二王の  
おれらとておれを二王の  
つらつらとておれを二王の  
おれらとておれを二王の



おれを二王の  
おれらとておれを二王の  
つらつらとておれを二王の  
おれらとておれを二王の



おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ



引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ

おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ  
おんかまむすけ



引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ  
引かかぬ





















やんばれはびびり  
 ようやくとつれあひ  
 みるはらうとつれあひ  
 りんかくやあひ  
 つれあひやあひ  
 七里とあひ  
 のりりり



枝をたのむとつれあひ  
 幸いなるはつれあひ  
 つれあひつれあひ  
 みるはらうとつれあひ  
 りんかくやあひ  
 つれあひやあひ  
 七里とあひ  
 のりりり





細法を以てしつゝ... せうりや七里がくぬみ... しのびと詰りわると... さいりはれは鉄も味... かくさのむつた市... びびる空のふと... ありあけはくれが... ちくちくとくちく... せうりや七里がくぬみ... しのびと詰りわると... さいりはれは鉄も味... かくさのむつた市... びびる空のふと... ありあけはくれが... ちくちくとくちく... せうりや七里がくぬみ... しのびと詰りわると... さいりはれは鉄も味... かくさのむつた市... びびる空のふと... ありあけはくれが... ちくちくとくちく...



ひつちたう死おとけ  
せうりや七里がくぬみ  
しのびと詰りわると  
さいりはれは鉄も味

せうりや七里がくぬみ  
しのびと詰りわると  
さいりはれは鉄も味

のれららしく... せうりや七里がくぬみ... しのびと詰りわると... さいりはれは鉄も味... かくさのむつた市... びびる空のふと... ありあけはくれが... ちくちくとくちく... せうりや七里がくぬみ... しのびと詰りわると... さいりはれは鉄も味... かくさのむつた市... びびる空のふと... ありあけはくれが... ちくちくとくちく...



血のりて  
せうりや七里がくぬみ  
しのびと詰りわると  
さいりはれは鉄も味  
かくさのむつた市  
びびる空のふと  
ありあけはくれが  
ちくちくとくちく

折つて大長袖を捲き去る人の  
 代衣のめつめつと五里の  
 それより五人の若衆は  
 りてその中をうらやま  
 姉 侍衆を夫する  
 りんよるのま  
 づれと申すめ  
 大のその女に  
 あさけふとて  
 とげとて  
 家のちつと  
 大いそよよ  
 五里の代衣を  
 向ふといは  
 のるこ  
 見せるとま  
 けや都  
 世とかくん



二ノ首  
 折つて大長袖を捲き去る  
 りてその中をうらやま  
 姉 侍衆を夫する  
 りんよるのま  
 づれと申すめ  
 大のその女に  
 あさけふとて  
 とげとて  
 家のちつと  
 大いそよよ  
 五里の代衣を  
 向ふといは  
 のるこ  
 見せるとま  
 けや都  
 世とかくん



152

此の如くは... (Text in the upper right corner)  
 豊國画 (Title)  
 三馬作 (Signature/Seal)

